人工知能レポート

-人工無能の作成-

提出期限：平成29年1月23日

第一班

氏名　　：小畠大輝

　年藤捺紀

　中山颯

　百垣太一

　Calvin J H

1. 人工無能について

製品名：O-Siri

愛称：野獣先輩

性別：男(諸説有り)

年齢：24歳

職業：学生

性格：根は優しく後輩想い

　　　 自分勝手になる節がある

1. 人工無能の特徴

　「野獣先輩」は、とある動画投稿サイトに投稿された動画に出演した人物であり、ネットでは一躍有名となり現在も世間を騒がせている。この人物について世界中の学者が研究に研究を重ねているものの、未だその全貌は明らかとなっておらず、本名はおろか性別、素顔も解明されていないことから現代の技術を持ってしても何の情報も得られないため巷では実在しない人物だったのではないかと噂されている。

　今回、私たちはそんな野獣先輩をモチーフに人工無能を開発した。野獣先輩の性別は不明ではあるものの、その風貌や言動から男性と仮定して話を進めていこうと思う。

　彼は24歳の学生であり、性格に関しては後輩想いの優しい人物でしばしば「人間の鑑」と呼ばれることもあるほど出来た人間である。しかしながら自分勝手になる節も垣間見えるため、人によりけりといったところか。

　発音・滑舌が悪くよくわからない日本語を使うこともあるが、そういった場合は適当に相槌を打っておくと勝手に話を進めていくので遠い目で見ていると良い。

1. 辞書について(年藤,小畠)

　本システムにおいて、私たちは4つの辞書を作成し、多様なシナリオを展開できるようにした。

辞書作成の際には言葉選びを慎重に行い、用途を誤らないよう細心の注意を払った。辞書の内容は野獣先輩が動画内で発言したものをベースとし、それに様々なネットスラングを取り込んで構成した。また、弓削島内を舞台にした日常会話を元に作成した辞書も用意しているため、ネットスラングに疎い人でも十分に楽しめる内容になったのではないかと思う。

　辞書の内容は、４つのうち２つは、ネットスラングをメインにした辞書。残りの２つは、弓削島内を舞台にした日常会話をメインにした辞書になっている。また、１つ１つの内容は短いものになっているので、手軽に楽しめるようになっている。

　会話はまず野獣先輩の発言から始まり、対話形式で話題が展開されていく。辞書内に登録されていない言葉が返ってきた時は、シナリオ展開用の辞書とは別に例外処理用の辞書を呼び出すという方法で例外処理を行っている。例外処理の応答文は野獣先輩の機嫌によってランダムに変化する仕組みになっている。

感想

　ネットスラングを使った会話を作成するということだったので、辞書を作成する際に言葉選びに苦労した。しかし、人工無能がどういうものなのかがわかり、人工無能に興味が持てたことが良かったと思う。さらに、このプロジェクトによって、チームワークの大切さやグループワークの良さについて学ぶことができたので、非常に良かったと思う。（小畠）

　今回、人工無能を作成するにあたって自分は既存のプログラムを改良しながら辞書の仕組みを理解していったのに対して、中山くん・カルビンくんは独自のプログラムを作成していったため、辞書のエンコードや遷移方法に多少のズレがあり、開発に遅れが生じてしまった。

　以上のことから、グループ内での意思疎通の確認は非常に大切なことであり、怠るべきことではないと痛感した。このことをこれからの人生の糧にしていけたらいいと思う。(年藤)

1. 音声について
2. プログラムについて
3. 動作例
4. 考察
5. 今後の課題